=防錆管理　投稿規定=

1．資 格

投稿資格は、これを制限しない。

2．受理日

原稿の受理日は、当協会に到着した日とする。

3．採否等

原稿の採否は、これを編集委員会(以下委員会という）に一任するものとし、委員会は字句の加除、訂正又は文章の一部の改変を行い、あるいはこれを執筆者に求めて、採否を決めることができる。

4．訂　正

受理された原稿の訂正は、委員会が要求した箇所以外は、その承諾を得ないで、執筆者がこれを変更してはならない。

5．再提出

訂正を求められた原稿は、これを締切り日までに再提出されないときは、投稿の意志がないものとして、これを処理することができる。

6．記事内容

記事内容は、「展望」、「報文（防錆防食分野の新規事項や結果を含み、学術論文に準じた内容)」、「テクニカルレポート（報文まではまとまっていないが、準じた内容。施工事例なども含む」、「実験ノート」、「総説」、「解説」、「資料」、「随想」、「見学紀行文」、「講座」とする。

7．報文の構成

内容は、次のとおりとする。

(1)防錆防食技術に関する新しい事実や価値あるデータを含むものとする。

(2) 報文の構成は、次の項目又は、それに類するものを含むものとする。概要(アブストラクト)、目的、方法、結果、考察、総括など。

(3)報文は、それぞれ単一論文として十分まとまったものとし、「〇〇に関する研究」(第〇報)とするなどは、これを避けるものとする。

(4)題目、アブストラクトは、用紙に英文を併記する。

(5) 図、表、写真は、英文を使用する。

(6) 報文以外は、すべて、和文とする。

8．別刷り

別刷りを希望する執筆者には、実費でこれを配布する。

9．原稿料

報文以外の掲載された原稿は、執筆者に所定の原稿料を支払う。

10．著作権

掲載された記事の著作権は、本協会に帰属するものとする。

=防錆管理執筆の手引き=

1．用語、原稿表紙は、本協会指定のものを使用してください。

(1) 文字は、当用漢字及び新仮名遣いを使用して下さい。

(2) 術語は、最新のJIS又は最新刊の文部省編「学術用語集」(博江堂出版)を標準として使用してください。

(3) キーワードをつけて下さい。

(4) ワードプロセッサー使用の場合には、40文字×40 行としてA4版の用紙に印字して下さい。

(5) 出来上がり1頁は、約2200字です。

2．項目区分

原稿の区分は、原則としてポイントシステムとし、左を1字下げてつぎのように見出しをつけて下さい。

（例）1　　章
　　1.1　　節
　　1.1.1　　項
　　(1)　　細目
　　(a)　　第1区分
　　(b)

3．数量単位

数量の単位は、国際単位(SI)系を使用してください。

4．アルファベット

アルファベットは、活字体で書いて下さい。

5．図・表・写真など

図・表・写真は、1編の原稿が刷り上がり5頁の場合は、合計10個程度とし、番号は、図1、表1、写真1のように表題は上部に、図、写真は、下部に記入して、挿入箇所を本文原稿の欄外に指定してください。

また、図、表、写真については、利用いただけるものはワープロ、エクセル、パワーポイントなどをご利用下さい。また、写真についてもご利用いただける場合には、ＪＰＥＧなどで作成してください。

5．1 図

(1) 図の原稿用紙は、本文の原稿用紙と同じA4に作成してください。

(2) 図・複雑な構造式、反応式は、そのまま製版が出来るように作成してください。

(3) 図面は、原則として幅7ｃｍ又は適度に縮尺されるものとして、作成して下さい。

(4) 図面の横幅は(座標軸の説明も含む)、出来るだけ7cm程度、又は14cm程度の範囲に収めて下さい。

(5) 座標軸の説明及び図中の記号は、10～11ポイント程度の大きさを使用して下さい。縦軸の説明字句は、下から上に書いてください。

(6) 図にはそれぞれ短い表題をつけて、図の下部に記入し本文のあとに別紙としてまとめて下さい。

5．2 表

本文の用紙と同じ大きさの用紙を用いて、本文のあとに別紙としてまとめ、表題は上部に記入して下さい。

5．3 写真

(1) 本文の原稿用紙と同じ大きさの白紙を用いて、表題は下部に記入し、本文のあとに別紙としてまとめて下さい。

(2) 写真中に記号、寸法を必要に応じて、入れてください。

6．引用文献

(1) 引用文献の略し方及び記号は、原則として“Chemical Abstract”あるいは、「日本化学総覧」に基づいてください。

(2) 日本人の著者の場合は、全員の氏名を略さずに記入し、外国人の場合には、V.A.Singhのように書いて下さい。

(3) 文献引用にあたっては、必要に応じて著作権者の了解を得てください。

［記載例］　雑誌の場合

著者:論文名,雑誌名,巻,号,通し頁（開始頁）～終了頁(発行年)

1) 半田隆夫,髙沢壽佳: 熱可塑性ポリエステル樹脂粉体塗装材の表面／界面切削法による塗膜付着強度評価,防錆管理,Vol.44,№11, p.401～405(2000)

2)・・・…　書籍の場合

著者:項目,書名,頁,発行所(発行年)

1) 北村義治:耐食材料,防食技術の実際, p41,日刊工業新聞社(1970)

2)……

7．原稿の提出

(1) ワードを使用の場合には、Mailでデータを添付して下さい。

(2) 著者校正にさいしては、投稿原稿が著者に送付されないので、原稿のコピーを手元においてください。

令和3年12月1日改正